ISO/TC206「ファインセラミックス」[†]

阪 口 修 司*

ISO/TC206 “Fine Ceramics”

by

Shuji SAKAGUCHI*

いろいろと過去の経緯があって、ISO/TC206「ファインセラミックス」の国際幹事 (Secretary) という仕事を引き受けている。引き受けたのが2005年4月であったから、もうすぐ引き受けてから10年になる。

TCはTechnical Committeeの頭文字で、「専門委員会」と日本語訳することになっている。TCの番号は設立順に付くので206番目に設立されたのがこの委員会である。TC206の設置が認められたのは1992年。最初のTC総会が開催されたのが1994年であるから、約20年間活動を行っている。

1980年代の後半、ファインセラミックスの各種試験方法に関するJISを検討しようという委員会があって、その中で硬さ試験の主査を担当するよう依頼された。多分、「セラミックスの力学的特性評価」という本の「硬度」の項を¹⁾担当させて頂く、という機会があったためではないかと思う。JIS R1610「ファインセラミックスの硬さ試験方法」の最初のバージョンは1990年に発行に至った。

これがきっかけで、1994年に開催されたTC206の第1回総会に参加することとなった。議論の結果、4件のISO規格の検討を開始することになり、そのうちのひとつが「硬さ」であった。ISO規格作成のルールもよく分からないまま、新業務項目提案の書式を埋めて会議に提出すると、この項目のプロジェクトリーダーと項目立ち上げに伴って開設された作業グループの主査 (コンビーナと呼ばれている) を任されることになった。このころに一度、「材料」誌に雑感を書かせて頂く機会を頂いている²⁾。

規格作成の手順、進行具合もよく分からないまま作業を進めていき、紆余曲折もあったが2000年に無事ISO 14705「Fine ceramics (advanced ceramics, advanced technical ceramics) – Test method for hardness of monolithic ceramics at room temperature」を発行に至らせることができた。

その後さらに1件の規格作成を担当したのちに、国際幹事引き受けへの打診があり、お引き受けすることにした³⁾。お引き受けした当初は、なかなか会議の運営がうまくいかないことなども多々あったが、ようやく少しは活動をスムーズに運べるようになったかなと、最近では思

うところである。関係する皆様のご尽力には大変感謝している。

図にTC206から発行された規格数の年次推移を示す。有難いことに毎年多くの提案を受け、2014年も10件を超える規格発行が出来、既に70件を超えるこの分野のISO規格が発行されている。

図1 TC206 から発行された ISO 規格件数の年次推移

国際幹事を引き受けたことで、この件に関するお話をさせて頂く機会を幾度か頂いているが、お話の最後は人材育成の話しでまとめることにしている。ここまで書いたようにいろいろな偶然が重なって、私はこの仕事を引き受けるに至っている。一方、国際標準化の活動に関しては、国際貢献強化の掛け声のもと、このような活動に携わる人材育成について様々な検討がなされているところである。私自身は前述のとおり、ISOの仕事に関わって早20年、その前のJIS規格に関連する活動を含めると30年くらいこの辺の仕事に関わっているが、現在の日本で研究者を志す方々が、30年以上同じ仕事を続けることは相当難しくなっているのではないかと感じている。そのような意味で、標準化活動を担う人たちが今後どのようなキャリアを描く中で活動を行っていくことになるのか、私自身はあまり想像できていない、というのが正直なところであり、漠たる不安を感じるところである。

参考文献

- 1) 「セラミックスの力学的特性評価」, 日刊工業新聞社, pp.15-23 (1986).
- 2) 阪口修司, 材料, Vol.46, No.3, pp.329-330 (1997).
- 3) 阪口修司, 標準化と品質管理, Vol.64, No.2, pp.68-71 (2011).

[†] 原稿受理 平成 26 年 11 月 12 日 Received Nov. 12, 2014 ©2015 The Society of Materials Science, Japan

* 正 会 員 産業技術総合研究所 中部産学官連携センター 〒463-8560 名古屋市守山区下志段味, Chubu Collaboration Center, AIST, Moriyama-ku Nagoya, 463-8560